

項目	説明	
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	RBM10 と pN1-N2 EGFR 遺伝子変異陽性肺腺癌の臨床病理学的関連性の検討
	研究目的	Epidermal Growth Factor Receptor(EGFR)遺伝子変異は原発性肺腺癌の約 50% 程度確認されている遺伝子変異であり、薬剤治療選択において重要な臨床情報の 1 つです。EGFR 遺伝子変異には EGFR exon 21 変異と EGFR exon 19 変異の 2 つのサブタイプが存在します。しかし近年、同じ EGFR 遺伝子変異であっても、サブタイプ毎で薬剤の効きが異なる事が示唆されてきております。さらに、申請者はサブタイプ毎で肺癌切除後の予後が異なる事を研究してまいりました。しかし両者にどのような分子生物学的な差異があるかは未だわかっておりません。 一方、RBM10 は多くの細胞内に存在する蛋白であり、RNA 代謝において重要な役割を担っております。近年、この RBM10 蛋白および RBM10 遺伝子変異が癌の進行および予後に関係している可能性が示唆されてきております。我々は以前 The Cancer Genome Atlas (TCGA) database を用いた少数の予備研究において、EGFR 遺伝子変異サブタイプと RBM10 遺伝子変異頻度に関連性がある結果を得ました。 本研究では EGFR 遺伝子変異サブタイプと RBM10 蛋白・RBM10 遺伝子変異との間にどのような関連性があるかを解明したいと考えております。本研究は今後 RBM10 蛋白・RBM10 遺伝子変異をターゲットとした薬剤開発を行う上で重要な研究となると考えております。
	研究対象者	2006 / 1 - 2018 / 12 に原発性肺腺癌に対して切除を行ったリンパ節転移を有する肺腺癌のうち、EGFR exon 21 変異、EGFR exon 19 変異肺癌患者さん。
	研究期間	西暦 2020 年 4 月 20 日 ~ 西暦 2022 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	伊坂哲哉
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診 療科/部局等	呼吸器外科
	共同研究の場合、共同 研究機関および各施設 での研究責任者	無し